

Market-eye

FOMC（6月9・10日）の評価と市場動向

2022年末までゼロ金利維持、1200億ドル/月の資産買い入れ継続

- 金利政策：政策指針、ドットチャート*、議長会見全て2022年末までゼロ金利維持を示唆
- 資産買い入れ：現行ペース（国債800億ドル+MBS*400億ドル）を向こう数カ月継続
- 市場への含意：YCC*にも言及、金利・ドルには下押し圧力、株式では投機色強まる可能性も

■ゼロ金利政策と資産買い入れの継続を決定

【FOMC（連邦公開市場委員会）声明文と経済見通し】

1. 政策金利は長期間据え置き：フォワードガイダンスは“雇用・物価目標達成に目処が着くまで現行の政策金利を据え置く”との従来文言を踏襲。昨年末以来の発表となったFOMC参加者の政策金利見通しでは、17人中15人が22年末までゼロ金利を据え置き。
2. 資産買い入れ強化：円滑な市場機能維持のため、今後数か月、少なくとも現行ペースで購入継続を決定。月1200億ドルは過去のQEの最大時を上回る規模。
3. 景気見通し：米実質GDP成長率見通しの中央値は、2020年▲6.5%、2021年+5.0%とV字回復とはならず、コロナ前の水準回復は2022年以降を示唆。失業率は2022年末時点で5.5%と、FRBが自然失業率とみなす4%程度に達しない見通しで、ゼロ金利継続の根拠に。

【パウエルFRB（連邦準備制度理事会）議長記者会見】

4. 今後の政策見通し：「利上げを考慮することなど考えもしていない」との言い回しで緩和政策を長期間継続する意向をにじませる。

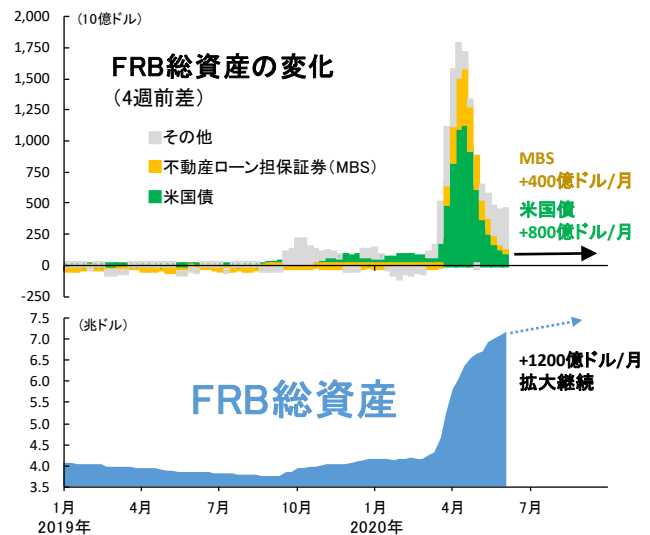
■FOMC受け金利・ドル下押し、株式は選別進む

FOMCを受け10日の米国債券市場ではブルフラット*化が進行。為替市場では約1ヵ月ぶりに106円台までドル安・円高が進みました。事前予想を上回る資産買い入れ額の決定に加え、パウエル議長が記者会見でYCC（イールドカーブコントロール）に言及したことで、米金利の先高観が一段と後退したと思われます。

株式市場ではNYダウ、S&P500指数が続落する一方、テクノロジー株の比重が高いナスダック総合指数は連日で最高値を更新しました。超低金利の長期化で、成長株が選好され易い環境が続くと予想されます。パウエル議長は、資産バブルの懸念についての記者質問に対し、“資産価格が高すぎるとの理由でFRBは経済支援を緩めることはない”と発言。このところ破産申請した企業の株が人気化するなど、投機色の強まりが見られる米国株市場で、その勢いが加速しないか注視する必要があります。

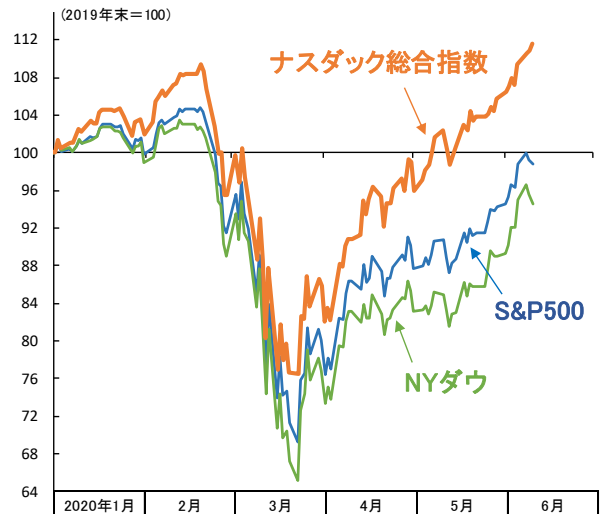
運用戦略部 投資戦略グループ 岩井 真子

図表1. FRB総資産の推移



【出所】Haver analyticsの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成

図表2. 米国 株式指数推移



【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成

* 最終ページの＜用語説明＞をご覧ください。

※本資料の使用に際し、最終ページの＜本資料に関するご留意事項＞を必ずご覧ください。

〈用語説明〉

- *ドットチャート … FOMC参加者の政策金利見通しを表現するもの。3月、6月、9月、12月のFOMCで公表される。
- *MBS … 不動産ローン担保証券（Mortgage Backed Securities）。不動産ローンを裏付けとして発行される金融商品。
- *YCC … イールドカーブコントロール。日銀等、一部の中央銀行が導入している金融政策。市場の金利を一定の水準に誘導し、イールドカーブを適切な水準に維持することを目的とする。
- *ブルフラット … 長期金利が低下し、イールドカーブの傾きがなだらかになること。

〈本資料に関するご留意事項〉

本資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。

投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします「投資信託目論見書（交付目論見書）」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。